

小 学 校

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

道 徳

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	3
III	研究の仮説	5
IV	研究の方法	5
V	研究の内容	
1	検証授業の実践	
(1)	実践事例1 低学年分科会（第1学年）の検証授業	6
(2)	実践事例2 高学年第二分科会（第6学年）の検証授業	10
(3)	実践事例3 高学年第一分科会（第5学年）の検証授業	15
(4)	実践事例4 中学年分科会（第4学年）の検証授業	19
VI	研究の成果と課題	23

I 研究主題設定の理由

1 道徳教育の動向

平成 29 年 3 月に新学習指導要領が公示され、平成 32 年度より全面実施となるが、道徳については、平成 27 年 3 月に「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」）として位置付けられ、小学校では平成 30 年度から全面実施される。改訂の社会的背景には、深刻ないじめ問題やグローバル化、情報化の急速な進展、少子高齢化の進行、科学技術の進歩など、児童をとりまく社会や地域、家庭の変化が挙げられる。また、児童の自尊感情の低さや規範意識の低下、コミュニケーション能力の低下なども問題視されている。そのような中、道徳教育は、道徳科を要として、これまで大切にされてきた指導内容に加え、現代的な課題等に対応するべく、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」ことを目標とし、答えが一つではない道徳的な課題を児童一人一人が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」への転換を図ろうとしている。

こうした動きに伴い、評価の在り方についても一層の充実が求められることとなった。平成 28 年 7 月には、道徳教育に係る評価などの在り方に関する専門家会議から、多様な指導方法の確立や評価などの在り方などについてより具体的な方向性が示された。また、「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成 29 年 3 月）では、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握することなどについてより具体的な方向性が示された。これらのことから、より質の高い適切で多様な指導と評価の方法について研究を深め、自己の成長を実感し、よりよく生きようとする児童を育成することが求められている。

2 児童の実態と課題

「平成 28 年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』（東京都教育委員会）（図 1）によると、「自分のことを大切な存在だと感じていますか。」という項目に肯定的な回答をした児童は 78.7%である。見方を変えると約 2 割の児童は、この項目について否定的な回答をしていることが分かる。自尊感情と平均正答率との関係を見ると、否定的な回答をしている児童の正答率は、肯定的な回答をしている児童に比べて約 3 ポイント低いことが分かり、こうしたことから自尊感情と学力の向上には、何らかの関係があると考えられる。全ての児童が学習面や生活面を充実させて、自己実現を果たせるようにするためには、児童が自己の成長を実感できる評価を積み重ね、豊かな心を育てていくことが重要である。

そこで、児童が自己の成長を実感できる評価を積み重ねるには、指導者による意図的・計画的な指導が重要であるという基本に立ち返り、学校の教育目標や道徳教育の

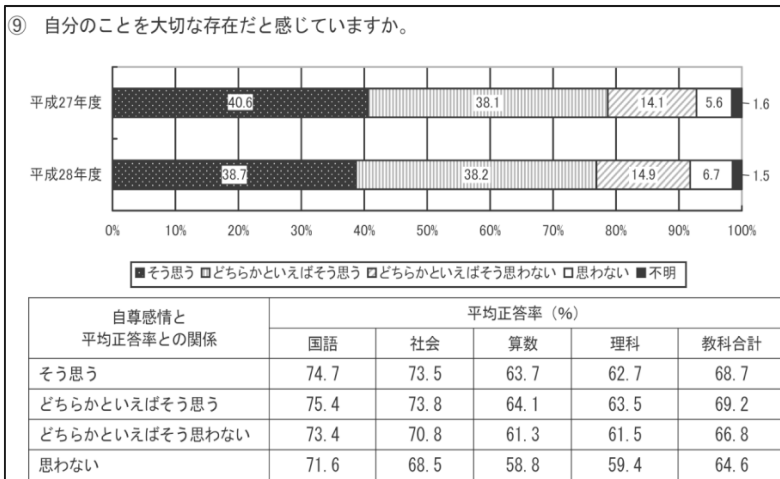


図 1 「平成 28 年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』（東京都教育委員会 平成 28 年 9 月）」

重点目標等を踏まえ、道徳科の学習指導計画を立て、道徳科の目標に明記された学習活動に着目した評価を行うことで、道徳性を身に付けるための資質・能力を向上させるという課題を明確にして、研究を行うこととした。

3 研究主題の設定

今回の改訂では、これからの時代を見据え、より一層、個々の児童の成長を促すとともに、自らの指導の改善に努められるよう、指導と評価の工夫が求められている。

特に道徳教育の評価については、これまでと同様に指導要録の「所見」や「行動の記録」等に示すとともに、道徳科についても教科としての評価を行い、指導要録へ示すこととなった。

これまで、個々の児童の道徳性が道徳教育の目標や内容を窓口として、どのように成長したかを明らかにするよう努めることや、教師が自らの指導を評価するとともに、指導方法等の改善に努めることが大切にされてきたが、これからは、より具体的に道徳科の各時間の児童の学習状況や成長の様子を見取り、評価していくことが求められている。

また、道徳科の評価は、これまでの道徳の時間の評価と同様に数値による評価は行わず（児童の道徳性は評価できるものではない。）、認め励ます個人内評価で行い、記述式で行うことと示されている。

このように、指導要録に道徳科の評価が加わることで必要となるのが、道徳科の各時間の児童の学習の記録である。道徳科の評価は、道徳性を養うための資質・能力に着目した学習活動における学習状況や成長の様子を見取することを重視しており、どのような学習活動を行い、児童の学習の記録を残すのが重要となってくる。しかし、ここで忘れてはならないのが、評価のための指導であってはならないということである。

そこで重要となるのが、「明確な意図をもった指導計画の立案」である。これは、指導のねらいを明確にし、道徳科の目標に明記された学習活動である「①道徳的諸価値についての理解を深める活動」、「②自己を見つめる活動」、「③物事を多面的・多角的に考える活動」、「④自己の生き方についての考えを深める活動」に着目して、指導方法を工夫していくことである。

そして、明確な意図をもった指導計画に基づいて行われた指導の中で評価資料を収集、蓄積して、児童の学習状況や成長の様子を見取り、児童が自己の成長を実感できる評価をしていくことが、道徳科の適正な評価につながると考えた。

そこで、本研究では研究主題を「『特別の教科 道徳』の指導と評価」、副主題を「児童が自己の成長を実感できる評価の工夫」と設定し、実践・検証を重ねることとした。

道徳科の資質・能力については、中央教育審議会教育課程部会 考える道徳への転換に向けたワーキンググループにより議論がなされており（図2）、これに準ずることとした。

- 資質・能力の三つの柱と道徳科との関係の整理に関する具体的な議論は中央教育審議会で行われるものであるが、本専門家会議においては、例えば、道徳科の学習活動に着目した捉え方として、
- ・「何を理解しているか、何ができるか(知識・技能)」
よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間として)の生き方についての考えを深める。
 - ・「理解していること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)」
よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間として)の生き方についての考えを深める。
 - ・「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)」
よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間として)の生き方についての考えを深める。
- というように、資質・能力の三つの柱に分節することはできないものの、それぞれ下線部分を重視するといった整理が考えられるとの議論がなされた。

図2 中央教育審議会教育課程部会 考える道徳への転換に向けたワーキンググループ資料（平成28年7月29日）

Ⅱ 研究の視点

1 明確な意図をもった指導計画の立案

新小学校学習指導要領では、「学校における道德教育は、特別の教科である道德を要として学校教育全体を通じて行うもの」と示されている。

また、「小学校学習指導要領解説特別の教科 道德編」（平成 29 年 3 月）では、「各教育活動での道德教育がその特質に応じて意図的、計画的に推進され、相互に関連が図られるとともに、道德科において、各教育活動における道德教育で養われた道德性が調和的に生かされ、道德科としての特質が押さえられた学習が計画的、発展的に行われることによって、児童の道德性は一層豊かに養われていく。」と示されている。

上記から、道德科の指導は、学校の教育目標や道德教育の重点目標、年間指導計画等を基に、明確な意図をもって計画され、位置付けられた一時間として行われなければならない。

このような、明確な意図をもって計画された指導を確実に行うことは、これまでの道德でも大切にされていたが、次年度からの教科化に当たり、より意識を高めて適正な評価・効果的な評価を行う上で再度見直す必要があると考えた。

2 評価資料の収集、蓄積の仕方の工夫

明確な意図をもった指導と児童の学習状況や道德性に係る成長の様子を継続的に把握し評価することは表裏一体のものであり、道德科の学習を児童の成長につなげていく上でとても重要なものである。「小学校学習指導要領解説特別の教科 道德編」（平成 29 年 6 月）では、「道德科の学習状況の評価に当たっては、道德科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童の学習状況や道德性に係る成長の様子を把握する必要がある。」「学習活動において児童が道德的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道德的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視することが重要である。」と示されている。

上記のことを踏まえ、学習活動に着目した適正な評価・効果的な評価を行い、児童に還元することで、児童が成長を実感できるようになると考えた。

これらの視点を基に、明確な意図をもって一単位時間の計画を立て、学習活動に着目した評価を行っていくことが道德科の指導では重要であると考えた。明確な意図をもった一単位時間の指導を積み上げていくこと（図 3）は、評価資料の収集・蓄積につながり、一定の時間的まとまりでの評価にもつながっていくと考えた。

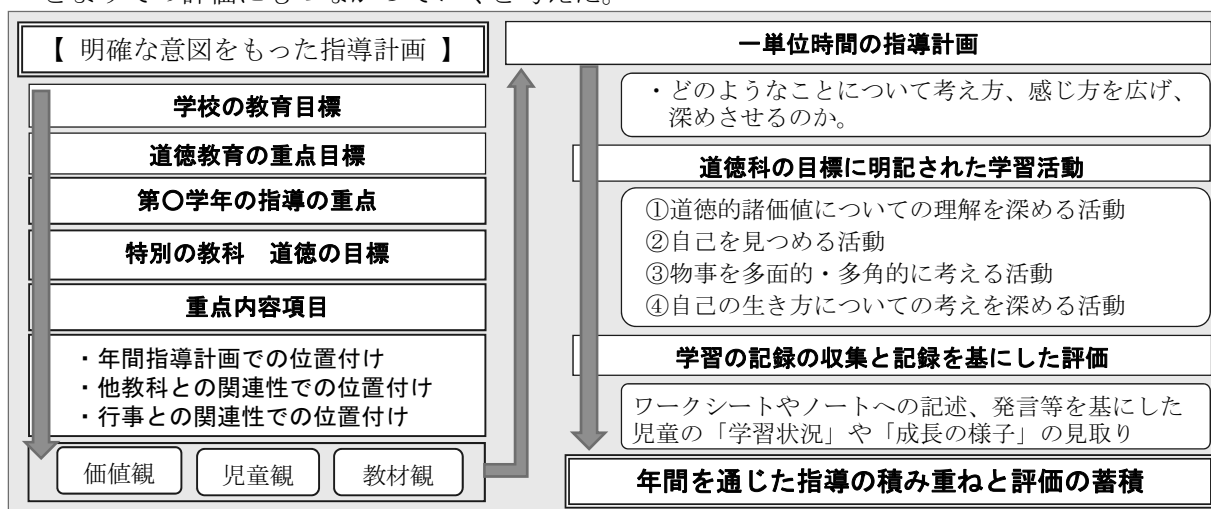


図 3 明確な意図をもった指導計画のイメージ

また、道徳科の目標に明記された学習活動に着目した評価を行う上で、どのように学習の記録を収集し、収集した記録から児童の学習状況や成長の様子を見取るのかについて、いくつか考えられる中で、本研究では以下の四つの事例を挙げて検証することとした。

- (1) <当該学年の重点内容項目の指導における学習活動に着目した事例>
⇒ 同じ内容項目による二単位時間分の指導を基に評価した事例 【実践事例(第1学年)】
- (2) <当該学年の課題に関連した内容項目の指導における学習活動に着目した事例>
⇒ 違う内容項目でユニットを組んだ指導を基に評価した事例 【実践事例(第6学年)】
- (3) <「成長の様子」が顕著に見られた内容項目の指導における学習活動に着目した事例>
⇒ 特定の一単位時間の指導を基に評価した事例 【実践事例(第5学年)】
- (4) <長期間にわたった指導における学習活動に着目した事例>
 - ① 1学期の「学習状況」や「成長の様子」の見取りを基に評価した事例
 - ② 1学期及び2学期の「学習状況」や「成長の様子」の見取りを基に評価した事例
 - ③ 年間にわたった「学習状況」や「成長の様子」の見取りを基に評価した事例
 - ⇒ 年間を通じて一つの重点内容項目の指導を基に評価した事例 【実践事例(第4学年)】

【評価資料（学習の記録）の収集の仕方】

○道徳科の授業を1学期に15回行った場合の例

1回	2回	3回 B 礼儀	4回 A 正直、誠実	5回 D よりよく 生きる喜び (2)	6回	7回
8回 A 個性の伸 長	9回	10回	11回	12回	13回	14回 B 相互理解、 寛容 (3)
15回 A 個性の伸 長 (1)						

当該学年の重点内容項目の指導における学習活動に着目した事例
※同じ内容項目による二単位時間分の指導を基に評価

当該学年の課題に関連した内容項目の指導における学習活動に着目した事例
※違う内容項目でユニットを組んだ指導を基に評価

「成長の様子」が顕著に見られた内容項目の指導における学習活動に着目した事例
※特定の一単位時間の指導を基に評価

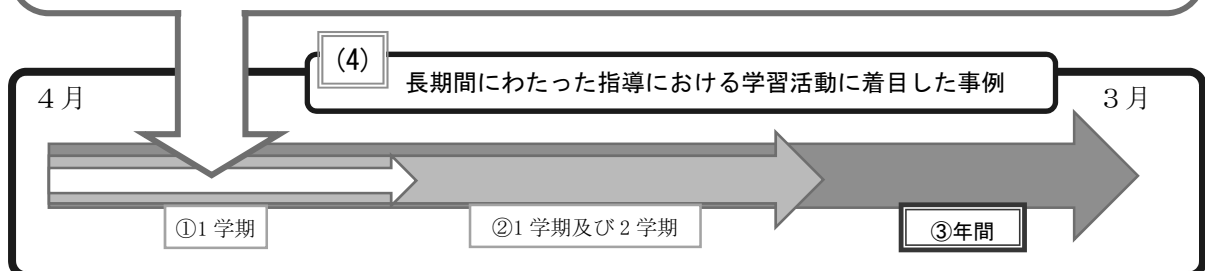


図4 評価資料（学習の記録）の収集の仕方のイメージ

Ⅲ 研究の仮説

明確な意図をもって指導の計画を立て、児童のよさや学習状況の進歩の状況などを積極的に評価するための手だてを工夫することで、児童が自己の成長を実感し、よりよく生きようとする児童が育つであろう。

本研究は、「『特別の教科 道徳』の指導と評価」を研究主題、副主題を「児童が自己の成長を実感できる評価の工夫」とし、「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価などについて（報告）」（「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」文部科学省（平成28年7月22日））に示された「道徳科における評価の在り方」及び「道徳科の評価の方向性」を参考に、児童がよりよく生きようとする道徳性を養うための指導方法と評価について考察する。

道徳科においては、従前の道徳の時間よりも、一層道徳性を育てていくことが求められており、指導方法の転換や工夫に加え、評価についても有効に役立てていくことが重要である。そこで、本研究では、研究の仮説を上記のように設定し、検証授業を行うとともに、その成果と課題について検証することとした。

Ⅳ 研究の方法

1 研究構想図

研究主題 「『特別の教科 道徳』の指導と評価
～児童が自己の成長を実感できる評価の工夫～」

研究仮説

明確な意図をもって指導の計画を立て、児童のよさや進歩の状況などを積極的に評価するための手だてを工夫することで、児童が自己の成長を実感し、よりよく生きようとする児童が育つであろう。

基礎研究

「小学校学習指導要領」（平成29年3月）

「小学校学習指導要領解説 総則編」（平成29年6月）

「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成29年6月）

- ・質の高い多様な指導方法について
- ・道徳科における評価の意義について
- ・主体的・対話的で深い学びの実現について

検証授業の実践

- ・児童の道徳科の授業における学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握する指導及び評価の工夫
 - (1) 当該学年の重点内容項目の指導における学習活動に着目した事例
 - (2) 当該学年の課題に関連した内容項目の指導における学習活動に着目した事例
 - (3) 「成長の様子」が顕著に見られた内容項目の指導における学習活動に着目した事例
 - (4) 長期間にわたった指導における学習活動に着目した事例

考察・まとめ・指導及び評価の方法の提示

2 仮説の検証

上記の研究構想図を基に、以下のように検証授業を行い、「特別の教科 道徳」の特質を踏まえた指導と評価の工夫について検証を図る。

- (1) 当該学年の重点内容項目の指導における学習活動に着目した事例
 第1学年 内容項目 A 個性の伸長
 教材名「ぞうさんの おはな」
 【「特別の教科 道徳」移行措置対応 小学校版 東京都道徳教育教材集】(東京都教育委員会)
- (2) 当該学年の課題に関連した内容項目の指導における学習活動に着目した事例
 第6学年 内容項目 D よりよく生きる喜び
 教材名「厳しい道を選ぶー大村 智 博士ー」
 【「特別の教科 道徳」移行措置対応 小学校版 東京都道徳教育教材集】(東京都教育委員会)
- (3) 「成長の様子」が顕著に見られた内容項目の指導における学習活動に着目した事例
 第5学年 内容項目 B 相互理解・寛容
 教材名「ブランコ乗りとピエロ」
 【「私たちの道徳」小学校五・六年】(文部科学省)
- (4) 長期間にわたった指導における学習活動に着目した事例(年間を通じた評価の場合)
 第4学年 内容項目 D 生命の尊さ
 教材名「人間愛の金メダル」
 【「4年生のどうとく」】(文溪堂)

V 研究の内容

1 検証授業の実践

- (1) 実践事例1 低学年分科会(第1学年)の検証授業

(1) 当該学年の重点内容項目の指導における学習活動に着目した事例

ア 明確な意図をもった指導計画の立案

(7) 明確な意図をもった指導計画の立案

学校の教育目標 考える子 思いやりのある子 健康な子		学校の教育目標を基に、道徳教育の重点目標、第1学年の指導の重点を設定し、道徳科の目標を踏まえて、第1学年の重点内容項目を2つ挙げた。 本時は「A 個性の伸長」の2回目の授業として、前時に考えた自分の長所を見つめ直せるようにする。 また、生活科や学級活動など、他教科等との関連も図りながら、自己を一層見つけることができるように年間計画に位置付けた。
道徳教育の重点目標 基本的な生活習慣や望ましい人間関係を育成し、未来に夢や希望をもつ。		
第1学年の指導の重点 健康に留意し、わがままをしないで、友達と仲良くする。		
特別の教科 道徳の目標 よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。		
第1学年の重点内容項目 A 主として自分自身に関すること 1 善悪の判断、自律、自由と責任 4 個性の伸長		
価値観 自分のよさがあることを認識し、嬉しいこと・素晴らしいこととして実感させたい。	児童観 自分の長所について肯定的に思う気持ちを高め、大切にしようとする気持ちを養いたい。	教材観 自分のよさに気付いた「ぞうさん」に共感させ、自分の長所について肯定的に思う気持ちを高めたい。

(イ) 道徳科の目標に明記された学習活動の工夫

① 道徳的諸価値についての理解を深める活動

自分の特徴への気づきを確かなものにするために、長所を知ることの嬉しさや喜びを実感させる。登場人物への自我関与を通して学習する場面では、適宜動作化を取り入れ、登場人物が自分の長所を知り喜びを感じている心情に共感させる。

② 自己を見つめる活動

自分の特徴や長所を知ることによって得られる嬉しさや喜びについて実感させるために、以前に同じ内容項目で学習した際に記入したワークシートを本時で読めるようにして、自分の特徴やその良さを知ったときの思いを再度振り返らせる。

③ 物事を多面的・多角的に考える活動

自分の特徴や長所についての気づきを広げたり深めたりさせるために、ペアによる意見交換を行い、友達と自分の特徴や長所についてどのように感じているかを紹介し合い、それぞれの多様な感じ方を受け止めさせる。

④ 自己の生き方についての考えを深める活動

これからの自己の生き方についての考えを深めさせるために、自分の特徴や長所がこれからの生活にどのようにつながっていくか考えさせる。その際、これまでの生活の中で、自分の特徴や長所が活かされた場面を思い出させたり、気付けるような助言をしたりして、これからの生活に対する意欲を引き出していくようにする。

イ 評価資料の収集、蓄積の仕方の工夫

(ア) 収集の仕方の工夫

児童一人一人の成長の様子を見取るために、自分の長所についてワークシートに書かせ、自分の長所への気づきを明確にさせる。

また、きめ細かく児童の学習状況を見取るために、児童が書いたワークシートの内容からの見取りに加えて、授業中の表情や発言を記録したり、授業後に面談したりする。

(イ) 蓄積の仕方の工夫

中、長期間に亘って児童の考え方を見取るために、毎時間の学習の最後に「どうとくがくしゅうカード」を用いて、その時間の学習に対する感想を書く活動を重ねていく。

ウ 本時の授業

(ア) 主題名 自分のよさってすてきだね A 個性の伸長

(イ) 教材名 「ぞうさんの おはな」

【「特別の教科 道徳」移行措置対応 小学校版 東京都道徳教育教材集】(東京都教育委員会)

(ウ) ねらい 自分の特徴や長所に目を向け、肯定的に考えられた「ぞうさん」の心情を共感的に考えることで、自分の特徴や長所に気づき、大切にしようとする心情を育てる。

(エ) 本時で深めさせたい考え方や感じ方

自分の特徴や長所に気づき、大切にしようとする

(カ) 学習指導過程

	学習活動 (○主な発問 ・予想される児童の反応)	◇指導上の留意点 ◆評価(評価方法)
導入	1 教材への意識付けをする。 ○ 教材「ぞうさんの おはな」の題名と挿絵、童謡「ぞうさん」を紹介する。	◇ 教材への興味を高めるとともに、温かい雰囲気をつくる。

展開	<p>2 教材「ぞうさんの おはな」を読み聞かせる。</p> <p>○ 友達の大きな口を見て、「ぞうさん」はどのように思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口が大きい方が便利。(他者への気付き) ・友達と同じ方がいい。(羨望) ・なんでぼくの鼻だけ長いんだろう。(疑問) <p>○ お母さんに抱き寄せられて話を聞いたとき、「ぞうさん」はどのようなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんも同じでうれしい。(家族愛) ・いいことがあってうれしい。(喜び) ・鼻が長いのはいいことなんだ。(気付き) ・できることがいろいろあるんだ。(自信) <p>◎ 大きく水を噴き上げたとき、「ぞうさん」はどのような気持ちだったでしょう。</p> <p>※自分の特徴に気付き、長所を積極的に認めて実感しているぞうさんの心情を捉えさせる。</p> <p><予想される多面的・多角的な考え></p> <ul style="list-style-type: none"> ・役に立ってうれしい。(喜び) ・長い鼻があつてよかった。(安心、自信) ・これからも役に立ちたい。(自己実現) 	<p>◇ 絵本形式による教材提示を行い、教材の世界に浸れるようにする。</p> <p>◇ 自分の特徴を肯定的に捉えないで、友達の特徴をうらやましがり、友達との違いに不安になる心情を押さえる。</p> <p>◇ お母さんと同じ鼻であることで安心し、素直に自分のよさを受け入れていることを押さえる。</p> <p>◇ 動作化を取り入れ、自分の特徴のよさに気付き、実感しているぞうさんの気持ちに共感させる。</p> <p>◇ <u>身体的特徴に思考が偏らないよう、長所を生かすことができたときの心情を重点的に取り上げる。</u></p> <p>◆ 主人公の自分の特徴への捉え方の変化に共感することができたか。(発言・挙手・態度)</p>
	<p>3 自分のことを振り返る。</p> <p>○ 自分のよいところについて、どのようなことを感じていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いっぱいあつて嬉しい。 ・知らないことが多かった。 ・これから伸ばしたい。 ・これから増やしたい。 	<p>◇ 教材の学習を振り返り、ワークシートに書かせる。</p> <p>◇ ペアで意見交換を行い、自分の考えを深められるようにする。</p> <p>◆ 自分の特徴について考えられたか。(ワークシート・発言・挙手・態度)</p>
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p> <p>○ 自分の特徴について肯定的に捉えられた経験を話す。</p>	<p>◇ 説話終了後に学習感想を書かせる。</p>

(キ) ワークシート

<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; height: 100px; width: 100%;"></div>	<p>○ じぶんのよいところについて、どのように感じていますか。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; height: 100px; width: 100%;"></div>	<p>◎ 大きく水をふきあげたとき、ぞうさんは、じぶんのはなをどのようにおもっていたでしょう。</p>
<p>※前回の学習で自分の長所について考えて記入した紙を貼らせる。</p> <p>例・あしがはやい</p> <p>・やさしい</p> <p>・本がすき</p>			
<p>じぶんのよさ</p> <p>ぞうさんの おはな</p>			

(ク) 本時の様子

教師の発問と児童の反応・発言など	
展開	T (教材「ぞうさんの おはな」を読む) T 友達の大きな口を見て、ぞうさんはどのように思ったでしょう。 C 悲しい。 C いいな、いいな。 C うらやましい。 C ずるいな。 C 口が大きくてうらやましい。 C 仲間外れだからいやだな。 T お母さんに抱き寄せられて話を聞いたとき、ぞうさんはどのようなことを考えたでしょう。 C いいことができるからうれしい。 C ぼく、すごいな。 C お母さん、ありがとう。 C いいことがあるなんて知らなかった。 C これでみんなと仲良く遊べる。 T 大きく水を噴き上げたとき、ぞうさんは自分の鼻をどのように思っていたでしょう。 ぞうさんと同じように水を大きく噴き上げてみましょう。 【手立て① 動作化することでぞうさんの心情に共感できるようにする。】 【手立て② 「自分の鼻」と焦点化して発問を行い、考える視点を明確にさせる。】 C ぼくのお鼻ってすごいな。 C よろこんでくれてうれしい。 C ぼくのお鼻はたよりになるな。 C こんなことはできると思わなかった。 C 長いお鼻があってよかった。 C 仲良く遊べてよかった。 C いろいろなことができる。 C ぼくってぞうさんでよかった。 C 他の友達に自慢したくなる。 C もっと友達になろう。
	長所への気付きから実感へと深まる姿
	T この前の時間に、自分のよいところをたくさん見付けましたね。 もう一度自分の良いところを振り返って、どのようなことを感じていますか。 【手立て③：前時に考えた自分のよいところを見つめ直し、長所として実感できるようにする。】 C (ワークシート記入) T 書き終わった人は友達と伝え合いをしましょう。 T それでは自分のよいところについて、どのようなことを感じましたか。発表しましょう。 C もっとうまくなりたい。 C いいところがあってよかった。 C うれしい、楽しい。 C やさしくてよかった。 C サッカーをやっていてよかった。

エ 評価資料の具体的な評価例

【当該学年の重点内容項目の指導における学習活動に着目した「学習状況」や「成長の様子」の見取り方の例】

主題名 教材名	発問	A児の反応	B児の反応	C児の反応
みつけよう、 よいところ (「よいところ をみつけたよ」)	自分のよいところ を考えてどう 思いましたか。	たのしかった。	うれしい。	どのようなところがいいところかな。ぼくのいいところは・・・。
	友達によいところ を教えてもら ってどのような 気持ちになりましたか。	うれしかった。	おともだちにてつぼう がうまいね、といわれて うれしかった。	なんだろう。でも、とも だちにおしえてもら うのっていいな。
【本時】 じぶんのよさ ってすてきだ ね (「ぞうさん のおはな」)	自分のよいところ はどのような ところですか。	ともだちにやさしく しているところ。なわ とびをがんばっている ところ。	オセロのあそびかたを おぼえて、つよくなるた めにともだちとたくさ んあそんでいるところ。 さかあがりをともだち におしえてあげている ところ。	せんせいにまいあさあ いさつをしているところ。
	自分によいところ があることを どのように思い ますか。	うれしい！たのし い！	ともだちにやさしいね といわれてうれし かった。こまっているとも だちがいたら、もっとて つだったりたすけたりし てあげたい。	うれしい。もっとうま くなりたい。

	A児の反応から ↓	B児の反応から ↓	C児の反応から ↓
児童の反応から「学習状況」や「成長の様子」として見取れたこと	友達に優しく接することができたり、なわとびをがんばっていたりすることを自分の長所と捉え、自分の特徴や長所について喜ぶ気持ちをもつことのよさに気付くことができている。	運動や遊びをがんばっていることを自分の長所と捉えることができている。学習を進めていく中で、自分の優しい面に気付き、自分の多様な長所に気付くことができている。	はじめは、長所を考えることに戸惑いを感じていたが、自分の長所にたくさん気付き、「もっとうまくなりたい。」と、長所を伸ばすことに意欲をもつことができるようになってきている。

(2) 実践事例2 高学年第二分科会（第6学年）の検証授業

(2) 当該学年の課題に関連した内容項目の指導における学習活動に着目した事例

ア 明確な意図をもった指導計画の立案

(7) 明確な意図をもった指導計画の立案

<p style="text-align: center;">学校の教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 心豊かで 思いやりのある子 ○ よく考え 進んで学ぶ子 ○ 丈夫な体で やりぬく子 	<p>学校の教育目標を基に、道徳教育の重点目標、第6学年の指導の重点を設定した。</p> <p>そして、「卒業に向けた取組」の一つとして、1学期の早い段階で「卒業までの一年間を充実したものにするためには、どのような目標を立てて、実行していけばよいだろうか」という課題を設定し、三つの内容項目（「正直、誠実」、「感謝」、「よりよく生きる喜び」）でユニットを組んだ指導を位置付けた。</p> <p>授業では道徳科の目標に照らして、各内容項目の指導のねらいを大切にするとともに、ユニットの学習を終えてから各内容項目の視点からテーマに迫らせ、自分の目標を立てさせることとした。</p> <p>また、国語の「読むこと」の学習や、社会の「歴史」の学習等で触れた様々な人物の考え方や生き方について自分の考えをもたせたり、日々の当番活動などの場面を想起させたりするといった、他教科と関連させた指導計画を立案した。</p> <p>3学期には、再度「よりよく生きる喜び」について学習し、一年間を振り返るとともに、中学校生活の目標について考えさせる予定である。</p>	
<p style="text-align: center;">道徳教育の重点目標</p> <p style="text-align: center;">豊かな心を持ち、相手を思いやる</p>		
<p style="text-align: center;">第6学年の指導の重点</p> <p style="text-align: center;">互いに信頼し、学びあって友情を深め、男女仲良く協力し助け合う。</p>		
<p style="text-align: center;">特別の教科 道徳の目標</p> <p>よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。</p>		
<p style="text-align: center;"><課題></p> <p style="text-align: center;">卒業までの一年間を充実したものにするためには、どのような目標を立てて、実行していけばよいだろうか</p> <p style="text-align: center;">A 正直、誠実 ⇨ B 感謝 ⇨ D よりよく生きる喜び</p> <p style="text-align: center;"><本時></p>		
<p style="text-align: center;">価値観</p> <p>人間がもっている強さや気高さに気付かせると共に、自分自身のよさや可能性を自覚し、自己の生き方に誇りを持ち、生きる喜びを感じる生き方をしようとする児童を育てたい。</p>	<p style="text-align: center;">児童観</p> <p>困難を乗り越え、自己の生き方に誇りをもつことで、生きる喜びを感じることを理解させ、よりよく生きようとする心情を育てたい。</p>	<p style="text-align: center;">教材観</p> <p>大村智先生の生き方を通して、困難を乗り越えることが自己の生き方に対する誇りにつながることを理解させ、人として生きる喜びを感じ、よりよく生きようとする心情を育てたい。</p>

(イ) 道徳科の目標に明記された学習活動の工夫

① 道徳的諸価値についての理解を深める活動

道徳的諸価値についての問題意識を高めるために、「よりよく生きる喜びとはどういうことか」について事前アンケートを行い、日常生活では考えることの少ないよりよく生きることについて目を向けさせる。

② 自己を見つめる活動

自分の事として考えさせるために、登場人物の関係や功績を具体的にイメージできるように文や絵、写真で示したり、登場人物の生き方を表などで整理したりして、教材の内容を理解させる。

③ 物事を多面的・多角的に考える活動

「よりよく生きる喜び」について多面的・多角的に考えさせるために、小グループでの交流タイムを設け、自分とは違う考えに触れることを通して、自分の考えを広げたり、深めたりさせる。

④ 自己の生き方についての考えを深める活動

教材の中の登場人物の生き方に対する自分の思いを整理させたり、自分がこれまでに生きる喜びを感じた経験やうまくいかなかった経験を想起させたりして、自己の生き方についての考えを深めさせる。

イ 評価資料の収集、蓄積の仕方の工夫

(ア) 収集の仕方の工夫

交流タイムを通して児童の考えの広がりや深まりを見取るために、ワークシートに交流タイムでの友達の発言を記録できるメモ欄を作成したり、メモを基に追記する時間を設定したりして、児童に再構築させる。

(イ) 蓄積の仕方の工夫

道徳の時間を通しての道徳性の高まりを見取るために、中心発問や自己を振り返る場面でワークシートに活用して、毎時間のワークシートを道徳科用ファイルに閉じて蓄積させる。

ウ 本時の授業

(ア) 主題名 よりよく生きるために D よりよく生きる喜び

(イ) 教材名 「厳しい道を選ぶ ー大村 智 博士ー」

【「特別の教科 道徳」移行措置対応 小学校版 東京都道徳教育教材集】(東京都教育委員会)

(ウ) ねらい 大村先生の生き方を通して、困難を乗り越え、よりよく生きようとすることのすばらしさを深く感じ取り、自分もよりよく生きていこうとする心情を育てる。

(エ) 本時で深めさせたい考え方や感じ方

よりよく生きるために主体的に深く考えることの大切さ

(オ) 学習指導過程

	学習活動 (○主な発問 ・予想される児童の反応)	◇指導上の留意点 ◆評価 (評価方法)
導入	1 ねらいとする価値に関わる問題意識をもつ。 ○ よりよく生きるとはどういうことだと思いますか。	◇ アンケート結果を提示し、道徳的価値への導入を図る。
展開	2 教材「厳しい道を選ぶー大村 智 博士ー」を読み聞かせる。	◇ 大村先生の生き方を写真や場面絵で順番に提示し、大村さんの人生のあゆみを理解しやすくする。

展 開	<p>◎ 大村先生が高校の教員から研究者になることを決めたことは、大村先生にとってよりよく生きることにつながったと思いますか。</p> <p>※信念に従って行動するときの希望や不安に気付かせると共に、自分から厳しい道を選ぶという判断をして、行動することがよりよく生きることにつながっていることに気付かせる。</p> <p>〈予想される多面的・多角的な考え〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究者になって多くの人を病から救ったから、よりよく生きることにつながった。(実績) ・自分も生徒と同じように努力し、勉強することができたから、よりよく生きることにつながった。(過程) ・祖母から人の役に立つ生き方をしなさいと言われていたことが実現できたからよりよく生きることにつながった。(祖母の教え) ・ノーベル賞をとることができたからよりよく生きることにつながった。(結果) <p>交流タイム 大村先生のよりよく生きるために厳しい道を選択した姿について、どのように感じたか交流する。</p>	<p>◇ 一番心に残ったところを聞き、話の概要をつかませる。</p> <p>◇ 児童の考えを受け止め、中心発問につなげる。</p> <p>◆ 大村先生がよりよく生きるために大切にしていることを多面的・多角的に考え、「よりよく生きる」とはどのようなことかについての自分の考えをもつことができたか。(ワークシート・発言)</p>
	<p>3 自分の生活を振り返って考える。</p> <p>○ よりよく生きるとはどのようなことだと思いますか。また、よりよく生きることにつながったと思うことやつながらなかつたと思うことは、何ですか。</p>	<p>◇ 弱い自分に気付き、反省で終わらせるのではなく、よさや可能性にも目を向けさせる。</p> <p>◆ よりよく生きることについて、自分との関わりで考えることができたか。(ワークシート・発言)</p>
終 末	<p>4 よりよい生き方だと思う自分たちの姿を知る。</p>	<p>◇ 余韻をもって終わらせる。</p>

(カ) ワークシート

<p><u>よりよく生きることに繋がった経験</u></p>	<p>☆ よりよく生きるとは、</p>	<p>★ 大村先生が高校の教員から研究者になることを決めたことは、大村先生にとってよりよい生き方につながったと思いますか。</p> <p>〔交流タイム〕</p>	<p>厳しい道を選ぶ―大村 智 博士―</p> <p>☆ よりよく生きるとは、どのように生きることだと思いますか。</p>
--------------------------------	-------------------------	--	---

(キ) 本時の様子

教師の発問と児童の反応・発言など	
展 開	<p>T：お話を聞いて1番心に残ったところはどこですか。</p> <p>C：子どもたちに囲まれながらVサインをしている写真</p> <p>C：祖母の言葉を守っているところ。</p> <p>C：結局は人の成果の上に立っているから、1から研究しようとしたところ。</p> <p>T：高校の教員から研究者になったことは、よりよく生きることにつながったと思いますか。</p> <p>【手だて②：ワークシートを使って自己の考えを整理し、交流を通して多様な考えに触れさせる。】</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分タイム：ワークシートに自分の考えを整理して書く</p> <p>→ 交流タイム：自由に意見交流する</p> <p>C：多くの人を救うことができたからよりよく生きることにつながったと思う。</p> <p>C：厳しい選択を実際にしたからよりよく生きたと言えると思う。</p> <p>T：どうして厳しい道を選択したらよりよく生きることになるの。←<u>ねらいに迫る補助発問</u></p> <p>C：教師でいるということは安定していることだけれども、研究者として立派な成果をあげ、世の中の人に認められることで、自分も研究者をめざそうとする人が現れるかもしれないから。</p> <p>C：自分の信じたことができたから。</p> <p>T：信じたこととは何ですか。 問い返すことで考えを広げたり深めたりさせる。</p> <p>C：おばあちゃんが言っていた「人の役に立つ人」を目指したこと。</p> <p>C：自分から厳しい道を選択したことで、自分自身も成長することができたから。</p> <p>T：確かに研究者として成功したけれど辛いことはなかったかな。</p> <p>C：成果が出ないときはどうしようとさみしい思いをしたと思う。</p> <p>C：頑張っているのに成果が出ずに悔しい気持ち。</p> <p>T：そうですね。こんな気持ちになったこともあっただろうね。もしも、結果が出なかったとしたら大村先生の生き方はよりよいものとは言えなかったかな。←<u>ねらいに迫る補助発問</u></p> <p>C：人のために努力したことがすでに、よりよい生き方であり結果は関係ないと思う。</p> <p>C：失敗から学ぶことも多くあるからよりよい生き方と言えると思う。</p> <p>C：最後まで目標に向かってやり通したことがよりよく生きたと言えると思う。</p> <p>C：厳しい道を選ぶことは、自分の成長につながると思う。</p>
	<p>T：アンケートと比較して、よりよく生きるとはどういうことだと思いますか。</p> <p>【手だて③：導入での発問を振り返り、主題についての理解を深める。】</p> <p>C：誰かのために自分の決断を大切にする。 C：失敗しても自分の信念を通す。</p> <p>C：厳しい道を選ぶこと。</p> <p>T：自分自身の生活を振り返り、よりよく生きることにつながったこと、また、つながらなかった経験を書きましょう。(ワークシートに自分の考えを整理して書かせる。)</p> <p>C：毎朝、みんなの名言を読むことが自分を信じることにつながった。</p> <p>C：あると言えばあるけれどつながらないことの方が多い。</p> <p>C：なかなかうまくできないこともあるけれど、前向きに自分らしく生きたいと思う。</p>

エ 評価資料の具体的な評価例

【当該学年の課題に関連した内容項目の指導における学習活動に着目した「学習状況」や「成長の様子」の見取り方の例】

	評価資料	A児の反応	B児の反応	C児の反応
手品師	A「正直、誠実」 中心発問 手品師はどうして大劇場の出演をやめて男の子との約束を守ったのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・劇場の出演は、自分以外にも出られる人はいけるけど、男の子との約束は自分しかいないから。 ・ずるいことをするとどこかで損をするから正直に過ごすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・男の子には謝ればいいし、電話をくれた友人の誘いも断りたくない。売れたら劇場に来てもらえらるから。劇場に行きたい。 ・人と違っていて、人につられずに自分の心を信じ、正直になることが大切だと思ふ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・男の子との約束を破るわけにはいかないし、ここで男の子のところに行かなくなったら一生、後悔する。お金より大切なこともある。 ・本当に大切なことを選んで、そのことを後悔しないで生きること。
黄熱病とのたたかい	B「感謝」 中心発問 命の危険を冒してアフリカに行くことは、感謝の気持ちを表し、恩返しをすることになるでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・野口英世を支えた人々も自分の利益はないのに支えてくれたから感謝を込めて、自分も黄熱病を治す。 ・落ち込んだときになぐさめたりしてくれる人たちに支えられていると思つた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・死んだらお母さんや友達が悲しむことになる。アフリカまで行かなくても研究はできる。 ・嫌なことがあっても友達と遊ぶと元気になるからありがたい。だから、ぼくも人を支えられるようになりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英世が死んだら周りの人は悲しむから、感謝を表すことにはならない。でも、英世は、それが自分の生きがいであり医者者の使命だと思つた。 ・両親や友達とは意見が対立することもあるけれど私のことを大切に思つてくれているので、私も相手を大事にしたい。
厳しい道を選ぶ	D「よりよく生きる喜び」 事前アンケート→発問3 よりよく生きるにはどのようなことだと思ひますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・誰も傷付けず、正しく誠実に人を通して生きること。 ・人のため、自分のために生きること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の信念を貫けることと他人を尊重できること。 ・自分を貫きながら、失敗も生かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理想をもつて、それを追い求めて生きること。 ・自分の使命に気付き、それを果たすこと。
大村智博士	中心発問 (交流前) → (交流後) 大村先生が高校の教員から研究者になることを決めたことは、よりよく生きることにつながったと思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ガーナの子供達の命を救えたし、大村さんの心が強くなったと思う。 ・最後までやり抜く過程が大切。結果が出なくても自分を強くしたことになる。 ・家の手伝いをしたらお母さんの負担が減った。友達の問題が終わるように応援したけれど、終わらなかつた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下積み時代は何もできなかったのなら教員でもいいと思う。 ・自分を貫き、失敗を生かせる人がよりよく生きることにつながる。 ・サッカーで同じミスをしたけど、最後に成功した。がんばろうと思つても、楽な方に流されたとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究者という成功するか分からない道へいくのは勇気がいる。 ・人と努力が好きで、人を幸せにする使命を果たそうとすることがよりよく生きることだと思ふ。 ・自分の夢を見つけたことも含めて、これまで的人生全てが、よりよく生きていくことにつながっていると思ふ。
	振り返り よりよく生きることにつながったと思うことやつながらなかつたと思うことは、何ですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との意見交流やクラスでの話し合いを通して、様々な考えに触れ、自分の考えを広げたり深めたりすることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身を見つめ、これからの生き方についてしつかりとした考えをもっている。また、話し合いを通して様々な考えがあることにも気付くことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を通して、人の弱さや不安など多面性にも気付くことができている。また、これからの自分の生き方について振り返り、考えることができている。

(3) 実践事例3 高学年第一分科会（第5学年）の検証授業

(3) 「成長の様子」が顕著に見られた内容項目の指導における学習活動に着目した事例

ア 明確な意図をもった指導計画の立案

(7) 明確な意図をもった指導計画の立案

<p style="text-align: center;">学校の教育目標</p> <p>○よく考え 進んで学ぶ子 ○丈夫な体で やりぬく子 ○心豊かで 思いやりのある子</p>	<p>学校の教育目標を基に、道德教育の重点目標を「豊かな心を持ち、相手を思いやる児童の育成」としている。</p> <p>また、第5学年の重点内容項目を設定して、道德科の授業を計画した。</p> <p>本時は、「B 相互理解、寛容」の2回目位置付けられている。9月の授業では、他人の立場を理解しながら行動することの大切さについて考えさせることで、自分と異なる立場の人を受け入れようとする態度を養う。そして、1月の本時では、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重しようとする心情を育てていくねらいがある。</p> <p>日々の係活動や当番活動でも意見の食い違いや立場の違いを感じる事が多くなる。その時に相手の意見を素直に聞き、なぜそのような考えをするのかを、相手の立場に立って考える態度を育てることが求められているのである。</p>	
<p style="text-align: center;">道德教育の重点目標</p> <p>豊かな心を持ち、相手を思いやる児童の育成</p>		
<p style="text-align: center;">第5学年の目指す児童像</p> <p>互いを思いやり、協力し合える児童の育成</p>		
<p style="text-align: center;">特別の教科 道德の目標</p> <p>よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。</p>		
<p>第5学年 重点内容項目 B 相互理解、寛容 C 公正、公平、社会正義 D 生命の尊さ</p> <p>9月：教材「すれちがい」</p> <p>【ねらい】 よし子とえり子がすれちがってしまった理由を考えることを通して、他人の立場を理解しながら行動することの大切さについて考え、広い心で自分と異なる人の立場を受け入れようとする態度を養う。</p> <p>1月：教材「ブランコ乗りとピエロ」</p> <p>【ねらい】 サムを理解し、受け入れていくピエロの気持ちを考えることを通して、謙虚さを持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重しようとする心情を育てる。</p>		
<p style="text-align: center;">価値観</p> <p>相手から学ぶ姿勢を常にもち、自分と異なる意見や立場を受け止めることや、広い心で相手の過ちを許す心情や態度は、多様な人間が共によりよく生き、創造的で建設的な社会を創っていくために必要な資質・能力である。いじめを生まない人間関係を醸成するためにも大切である。</p>	<p style="text-align: center;">児童観</p> <p>互いのものの見方や考え方の違いを意識するようになり、相手の立場や気持ちを考えて行動することの大切さは分かってはいるが、意見が対立してしまうこともある。自分も失敗や過ちを犯すということを自覚し、謙虚に自分を見つめ、相手の意見や立場を受け止め大切にしようとする広い心を育てたい。</p>	<p style="text-align: center;">教材観</p> <p>身勝手なサムに腹を立てていたピエロが、サムの努力に気づき、それを認め、サムを受け入れていく話である。</p> <p>ピエロのサムに対する心情の変化を考えることで、自分と異なる意見や立場を謙虚に受け入れることの大切さに気付かせたい。</p>

(4) 道德科の目標に明記された学習活動の工夫

① 道德的諸価値についての理解を深める活動

価値について理解を深めさせるために、多様な考えを引き出してねらいに迫るという意図をもって、どの場面で発問するかを考え、発問を設定した。

② 自己を見つめる活動

児童が自分の考えを広げたり深めたりするために話し合い活動を設定し、自分自身の意見を言葉に出して他人に伝えながら自己を見つめさせたり、友達の意見を聞いて多様な考えに触れさせたりする。

③ 物事を多面的・多角的に考える活動

児童が物事を多面的・多角的に考えることを促すために、中心発問をピエロのサムへの気持ちの変化の理由を問うものとした。サムの行動への共感であったり、自らの反省であったりと、多様な考えを引き出させる。

④ 自己の生き方についての考えを深める活動

児童が、教材を通して自己の生き方についての考えを深められるようにするために、事前のアンケートと同じ発問を、振り返りの段階でも行い、もう一度考えさせることにした。「広い心」に対する自分の考えの変化を、自分で捉えられるようにすることで、教材に描かれた物語の世界と自分の経験とを結び付けて、自己の生き方について考えさせることができると考えた。

イ 評価資料の収集、蓄積の仕方の工夫

(ア) 収集の仕方の工夫

児童が、教材を通して自己の生き方についての考えを深められるようにするために、事前のアンケートと同じ発問を振り返りの段階でも行い、もう一度考えさせることにした。「広い心」に対する自分の考えの変化を、自分で捉えられるようにすることで、教材に描かれた物語の世界と自分の経験とを結び付けて、自己の生き方について考えさせることができると考えた。

(イ) 蓄積の仕方の工夫

ねらいとする道徳的価値への深まりや広がりを見取るために、振り返りで、事前のアンケートと同じ発問をもう一度投げかける。また、事前のアンケート、中心発問、振り返りの発問を1枚のワークシートに記入させることで、児童自身が本時の学習前と後の考えを比較できるようにし、本時での成長を実感させる。そして、一定の時間的まとまりでの成長を実感させるために、授業後に児童が記入したワークシートをファイリングさせ、児童自身がこれまでの学習を振り返ることができるようにする。

ウ 本時の授業

(ア) 主題名 謙虚に広い心をもって B 相互理解、寛容

(イ) 教材名 「ブランコ乗りとピエロ」

【「私たちの道徳 小学校五・六年」】（文部科学省）

(ウ) ねらい サムを理解し、受け入れていくピエロの気持ちを考えることを通して、謙虚さを持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重しようとする心情を育てる。

(エ) 本時で深めさせたい考え方や感じ方

自分と異なる意見も広い心で受け入れることの大切さ

(オ) 学習指導過程

	学習活動 (○主な発問 ・ 予想される児童の反応)	◇指導上の留意点 ◆評価 (評価方法)
導入	1 児童の事前アンケートの結果を紹介する。 ○ 事前アンケート「あなたが考える広い心とはどのような心ですか。」の結果を見ましましょう。 ・やさしくすること。 ・相手を許すこと。	◇ 価値へと方向付けるために、本時における価値に対しての、現在の児童の考えを明確にする。

展 開	<p>2 教材「ブランコ乗りとピエロ」をもとに話し合う。</p> <p>○ サムと言い争っているとき、ピエロはどのような気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サムはいつも自分勝手だ。(怒り) ・スターを気取っていて、自分だけ目立とうとしているのは許せない。(怒り) ・自分も大王様に見てもらいたい。(嫉妬) ・自分も目立ちたい。(嫉妬) <p>◎ なぜ、ピエロからサムを憎む気持ちが消えたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サムが努力していることが分かったから。(他者理解) ・サムも観客のため、サーカス団のために頑張っていることが分かったから。(他者理解) ・自分も目立ちたいという思いがあったから。(反省) ・自分だけがスターでいたいと思っていたことを反省したから。(反省) ・サムの努力する姿勢を手本にしようと思ったから。(共感) 	<p>◇ 登場人物と話の設定を紹介し、教材への関心を高めさせる。ピエロとサムの立場や場面の様子を明確にするために、表にまとめて提示する。</p> <p>◇ 自分勝手な行動をとるサムへの怒りのほか、自分も目立ちたいという嫉妬の気持ちにも気付かせる。</p> <p>◇ ねらいとする価値に迫るために、サムのよいところや、ピエロが自分にも目立ちたいという気持ちがあったことに気付き、それがサムを受け入れていくきっかけとなったことを押さえる。</p> <p>◆ サムの努力に気が付き、それまでの自分を見つめ、サムを受け入れていくピエロの気持ちを考えることができたか。(ワークシート・発言)</p>
	<p>3 自分の生活を振り返って考える。</p> <p>○ あなたが考える「広い心」とはどのような心ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のよいところに目を向け、認めようとする心。 ・友達と生活する上で大切なもの。 ・相手の気持ちを考えること。 	<p>◇ 板書で教材の学習をおさえたあと、「広い心」についての自分の考えをワークシートに書かせる。その後、少人数グループで意見を交流し、追記する時間を設ける。</p> <p>◆ 「広い心」について自分の考えをもち、自分と異なる意見や立場を尊重しようとする心情が高まったか。(ワークシート・発言)</p>
終 末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>◇ 児童が「広い心」をもつことの大切さを実感できるような話をする。</p>

(カ) ワークシート

<p>(発問4)</p>	<p>○ あなたが考える「広い心」とはどのような心ですか。</p>	<p>(中心発問で書かせる)</p>	<p>☆ なぜ、ピエロからサムをにくむ気持ちが消えたのでしょうか。</p>	<p>(事前アンケートより)</p>	<p>○ あなたが考える「広い心」とはどのような心ですか。</p>	<p>「ブランコ乗りとピエロ」</p>
--------------	-----------------------------------	--------------------	---------------------------------------	--------------------	-----------------------------------	---------------------

(キ) 本時の様子

教師の発問と児童の反応・発言など	
展 開	T：なぜ、ピエロからサムを憎む気持ちが消えたのでしょうか。
	C：同じスター同士だったから、気持ちを理解できたからです。
	C：同じ立場だから、同じ気持ちだったと思います。
	T：どういうところが同じなのですか。
	C：スターというところが同じです。
	T：他に同じところがありますか。
	C：「お客さんに喜んでもらいたい」、「自分も目立ちたい」という気持ちも同じです。
	T：では、なぜ憎む気持ちが消えたのですか。
	C：サムの頑張っている姿を見たからです。
	C：二人ともスターの気持ちを捨てれば良いと思います。
	C：サムの疲れ果てた姿を見たからです。
	※C⇒「成長の様子」が顕著に見られた児童 サムのことを理解し、気持ちが同じだということに気が付いた。 自分のことも振り返って反省した。

エ 評価資料の具体的な評価例

【「成長の様子」が顕著に見られた内容項目の指導における学習活動に着目した「学習状況」や「成長の様子」の見取り方の例】

児童例	A児の反応	B児の反応
児童例	道徳的価値について 理解を深めている姿	物事を多面的・多角的に 考えている姿
事前アンケート (ワークシート)	あなたが考える広い心とはどのような心ですか。	
	・思い付かない。	・思いやりがあって、やさしい人の 心を広い心だと思う。
中心発問 (ワークシート) 意図 登場人物の気持ち の変化の理由を問 うことで、児童が 物事を多面的・多 角的に考えること を促す。	なぜ、ピエロからサムを憎む気持ちが消えたのでしょうか。 ・サムが力いっぱいがんばって観客 をくぎづけにしているのはピエロ といっしょであり、二人ともスタ ー気取りであるから、おたがい自 分がスターという気持ちをすてれ ばまるくおさまると思ったから。	・サムがサーカスを終わるとぐった りしているのを見て、それくらい 集中してがんばっていたと気が付 いたから。 <u>友達の考えを赤で追記</u> ○お客さんを喜ばせたいという同じ 気持ちがあり、にくめなくなった。 ○ピエロも自分だけ目立ちたいとい うスターの気持ちをもっていたこ とに気が付いたから。
	同じ発問をする	
事前アンケートと 同じ発問 (ワークシート)	あなたが考える広い心とはどのような心ですか。	
	・いくら怒っても、相手を理解した り、反省をしたりして、おたがい にゆるし合える心	・相手の気持ちを考えて、自分のこ ともふりかえて間ちがいに気付 ける人や、相手の事をせめないで、 ちゃんと向き合ってあげられる人 の心
児童の反応から 「学習状況」や「成 長の様子」として 見取れたこと	登場人物の心情の変化の理由を考 えることで、広い心について「相手 を理解したり、反省したりおたがい にゆるし合える心」とであると、理解 を深めている。	広い心とは「相手の気持ちを考え て自分のこともふりかえて向き合 う心」と考えるなど、友達の話をよ く聞き、自分にはなかった考えを取 り入れ、自分の考えを広げることが できている。

(4) 実践事例4 中学年分科会（第4学年）の検証授業

(4) 長期間にわたった指導における学習活動に着目した事例

ア 明確な意図をもった指導計画の立案

(7) 明確な意図をもった指導計画の立案

<p style="text-align: center;">学校の教育目標</p> <p>○心豊かで 思いやりのある子 ○よく考え 進んで学ぶ子 ○丈夫な体で やりぬく子</p>	<p>学校の教育目標を基に、道徳教育の重点目標を「豊かな心を持ち、相手を思いやる」としている。</p> <p>また第4学年の重点内容項目を「D 生命の尊さ」として、道徳科の授業を計画した。</p> <p>本時は、年間3回ある「D 生命の尊さ」についての第2回目の授業に当たる。1学期には「生命の有限性」について、限りある生命を精一杯生きることの大切さを考えさせる。</p> <p>そして、本時である2学期は「生命の唯一性」を取り上げ、たった一つしかない生命のかけがえのなさについて考えさせる。</p> <p>さらに、3学期には「生命の連続性」について、生命が愛情でつながるかけがえのないものであることを考えさせる。</p> <p>また、国語科の生命の大切さを題材にした文学的教材や、体育科の人間の体の仕組みについて考える教材など、様々な生命の大切さに触れ、日々の学校生活とも関連付けながら深めていけることを意図して、ここに位置付けた。</p>	
<p style="text-align: center;">道徳教育の目標</p> <p>豊かな心を持ち、相手を思いやる</p>		
<p style="text-align: center;">第4学年の指導の重点</p> <p>生命の尊さを知り、生命あるものを大切にす</p>		
<p style="text-align: center;">特別の教科 道徳の目標</p> <p>よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多角的、多面的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。</p>		
<p style="text-align: center;">重点内容項目</p> <p>D 生命の尊さ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。 		
<p style="text-align: center;">価値観</p> <p>生命を大切にし、尊重することは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に答えようとするものである。</p>	<p style="text-align: center;">児童観</p> <p>この段階においては、現実性をもって死を理解できるようになる。たった一つしかない尊い生命を守ろうとする姿から、他人の命を大切にしようとする心情を育てていきたい。</p>	<p style="text-align: center;">教材観</p> <p>オーストラリアの選手が海に落ち、スウェーデンの選手が顔を見合わせた時の気持ちを中心に話し合わせ、たった一つしかない生命を救おうと葛藤しながらも決意する気持ち、生命を尊ぶ気持ちについて深めさせたい。</p>

(イ) 道徳科の目標に明記された学習活動の工夫

① 道徳的諸価値について理解を深める活動

教材提示にプレゼンテーションソフトや効果音を用いて児童の興味・関心を高め、教材の世界に浸り、登場人物の思いに共感させることを通して、生命の尊さについての理解を深められるようにする。

② 自己を見つめる活動

前時から本時までの学習を通して、自分の成長が実感できるようにするために、事前に5月に行った本時と同じ内容項目のワークシートを児童に読ませておき、改めて本時で生命の尊さについての考えを問うようにする。

③ 物事を多面的・多角的に考える活動

自分や友達の考えを視覚的に捉え、自他の考えを比較しながら、多様な考えに触れられるようにするため、中心発問においてネームプレートを活用し、自分の考えと異なる友達と交流できるようにする。

④ 自己の生き方についての考えを深める活動

自己の生き方についての考えを深めるために、振り返りで生命に対する思いを聞き合う場を設定し、多様な考えに触れる。

イ 評価資料の収集、蓄積の仕方の工夫

(7) 収集の仕方の工夫

児童が生命尊重に対する価値観を的確に把握できるようにするために、アンケートを実施する。また、同じ内容項目で実施した過去の授業からの児童の考え方の変容や成長の様子を把握するために、過去のワークシートの記述を記載した座席表を活用し、授業中の児童の発言やつぶやきを記録する。

(4) 蓄積の仕方の工夫

これまでの授業で使用したワークシートをファイルにとじたり、児童の発言等を記録したものを計画的にファイルにとじたりさせて、それらを学習状況を見取るための評価の材料とする。同じ内容項目の授業を行う際は、前回のワークシートの記述を座席表に記載したものを活用し、前回の授業からの児童の考え方の変容や成長の様子を把握する。

ウ 本時の授業

(7) 主題名 かけがえのない命 D 生命の尊さ

(4) 教材名 「人間愛の金メダル」【「4年生のどうとく」】(文溪堂)

(ウ) ねらい オーストラリアの選手が海に落ちたのを見て顔を見合わせたキエル兄弟の気持ちを考えることを通して、生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。

(エ) 本時で深めさせたい考え方や感じ方

何にも代えることのできないたった一つの尊い生命の大切さ

(オ) 学習指導過程

	学習活動 (○主な発問・予想される児童の反応)	◇指導上の留意点 ◆評価(評価方法)
導入	1 オリンピックと教材の主人公キエル兄弟について知る。 ○ オリンピックを目指す選手たちは、普段どのような生活をしていると思いますか。	◇ オリンピック出場には、大変な努力が必要なことや国の代表として期待を受けながら出場することに気付かせる。 ◇ スウェーデンもオーストラリアも、ヨット競技で毎回のようにメダルを獲得している国であることを押さえる。
展開	2 教材「人間愛の金メダル」の範読を聞き、話し合う。 ○ ヨットレースが始まる時、キエル兄弟はどのような気持ちだっただろう。 ・金メダルをとるぞ。 ・国の代表として負けられない。 ・今までの練習の成果を出したい。 ◎ オーストラリアの選手が海に落ちたのを見て顔を見合わせたキエル兄弟は、どのようなことを考えていただろうか。	◇ プレゼンテーションソフトと効果音を用いて教材を提示し、教材の世界に浸らせる。 ◇ メダルを取ることを大切な目標に努力してきたことや国民の期待を背負っているという自覚など、強い思いをもってレースに臨んでいることに気付かせる。 ◇ レース中であり、海に落ちたのはレースの相手であること、救助の船が用意されていることをおさえてから発問する。 ◇ 「助けよう」と「このまま進もう」の二つの考えに近い方にネームプレートを貼り、自分の考えと異なる友達から交流させ多様な考えにふれられるようにする。

展開	<p>助けよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金メダルよりも命が大切だ。 ・命は一つしかない、ウインター選手を死なせたくない。 ・助けるのは、私たちしかいない。 <p>このまま進もう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助けるのはおれたちの役目じゃない。 ・金メダルがほしい。もう少しだ。 ・ここでやめたら国の人のがっかりする。 <p>○ オーストラリアの選手を救おうと探しているキエル兄弟は、どのようなことを考えていただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お願いだ。生きていてくれ。 ・早く見付け出してあげたい。 ・必ず助けてあげるぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 友達の考えを聞いた後、ネームプレートを移動させてもよいことを確認する。 ◇ メダルという目標と人命の間で葛藤するキエル兄弟の思いに気付かせたい。 ◇ 荒れ狂う広い海の中を探していることをおさえてから、発問する。 ◇ たった一つの命を大切にしようとするキエル兄弟の思いに気付かせる。 <p>◆ 登場人物の迷いや葛藤する気持ちを考えることを通して、命はかけがえのないものであることを感じ取ることができたか。(発言・表情・つぶやき)</p>
	<p>3 これまでの自分の生活を振り返る。</p> <p>○ 今日の授業を通して、改めて生命について考えたことや感じたことを書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ ワークシートを活用し、一つしかない命についてじっくりと振り返るよう、時間をしっかりと取る。 ◆ 自分の今までの生活を振り返り、命あるものを大切にしていこうとする気持ちが高まったか。(ワークシート)
終末	<p>4 新聞記事を紹介する。</p>	<p>◇ 今回の話が実話であることを実感できるとともに余韻をもって授業を終える。</p>

(カ) ワークシート

人間愛の金メダル

今日の授業を通して、あらためて命について考えたことや感じたことをワークシートに書きましょう。

(キ) 本時の様子（授業記録の抜粋）

	教師の発問と児童の反応・発言など
展開	<p>【手だて①：人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解するため、教材提示にプレゼンテーションソフトや効果音を用いる。】</p> <p>T：荒波です。すごい、風が強いです。そんな中でのレースです。（BGM 開始）～範読～（音と画面消す） （中心発問より）</p> <p>T：オーストラリアの選手が海に落ちたのを見て顔を見合せたキエル兄弟は、どのようなことを考えただろう。</p> <p>C：大丈夫かな。</p> <p>C：人の命がかかっているから、助けたいけど、金メダルも取りたいからどうしよう。</p> <p>【手だて②：自分や友達の考えを視覚的に捉えられるようにネームプレートを活用する。】</p> <p>T：助けようこのまま進もうという気持ちがあったんだね。自分の考えが近いところに、ネームプレートを貼りましょう。自分の意見と違う人と交流した後に、似ている人と交流して下さい。</p> <p>T：まず、このまま進もうに貼った人、教えてくださいませんか。</p> <p>C：ハマヤ号は調子がよくて、もうすぐで1位というところだったから、助けたら、5位とかになってしまうかもしれない。</p> <p>C：オリンピックは4年に1度しかないし、海に落ちたオーストラリアの選手の後ろには、船もあるから、助けてくれるはず。</p> <p>T：なるほどね。真ん中あたりに貼った人はどうですか？</p> <p>C：私は、少し助けように寄せました。目の前で人が命の危険にさらされているのに、そのまま放っておくのは、だめだと思います。</p> <p>C：私は、助けように寄せました。このまま進んだら、選手の命も危ない。助けたら、最下位になって悔しい思いをする。だから迷っている。</p> <p>T：助ける気持ちがちょっと上なんだ。もう少し詳しく教えてくれる。</p> <p>C：みんな大切な命だし、このままおぼれたら、悲しい思い出になってしまうから。</p> <p>C：Aさんに付け足しで、このまま見捨ててゴールしても、達成感が生まれえないし、命が一番大切なものだと思う。だから、助けたい。</p> <p>T：なるほどね。その海は荒波なんだよね。救助の船は待っているけど、波は荒れ狂っていて、とても間に合いそうにない。そんな状況だけど、みんなの考えを聞いて、考えが変わった人はいますか？</p> <p>C：今、みんなの意見を聞いて、私はこのまま進もうから助けように変えました。命は、一つしかない。人の命を助けたから、順位が下がっても文句は言われえない。</p> <p>C：4年に1度の大会だけど、メダルよりも命の方が優先だと思う。金メダルは、次取ればいいという気持ちになれるから。</p> <p>T：Bさんは、考えが大きく変わりましたね。</p> <p>C：私は、みんなの意見を聞いて、助けようの方に変わりました。なぜかという、オリンピックは、次も出られるかもしれないけど、命は一回落としてしまったら、もう次は無いし、それにメダルが取れないのと命がなくなるのなら、メダルは取れなくてもいい。</p> <p>【手だて③：自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、改めて考えを深めるようにする。】</p> <p>T：なるほどね。今日の授業を通して、改めて命について感じたことや考えたことを書きましょう。 （ワークシート書き始め）</p> <p>T：書いた人は、発表してください。</p> <p>C：命は一人に一つしかないから、命より大切なものは無いと思います。だから、どのような時でも命を助けないといけないと思います。</p> <p>C：命は、この世界で一番大切なものではないかと考えました。なぜかという、金メダルは取れなくても次があるけれど、命は一度失くしたら戻ってこないからです。</p>

エ 評価資料と具体的な評価例

【長期間にわたった指導における学習活動に着目した「学習状況」や「成長の様子」の見取り方の例】

※ 第4学年の評価計画例(一年間、同じ内容項目の学習の記録を取り上げて見取った場合)

「D 生命の尊さ」に着目した場合

	振り返りシート	1学期 (教材「このあとどうしちやおう」)	2学期 (教材「人間愛の金メダル」)	3学期 (教材「つながっている!」)	児童の反応から「学習状況」や「成長の様子」として見取れたこと
A児の反応	○今日の授業を通して、命について考えたことや感じたことをワークシートに書きましよう。	・家族が交通事故にあったとき、生命の大切さを考えた。	・お母さんが病気で入院したとき、生命の大切さを知ることができた。	・テレビのニュースで事件を見てまきこまれている人たちがとても大変でかわいそうだと思った。	◆生命尊重の授業を通して、自分の体験を振り返りながら、価値についての理解を深めている。
B児の反応		・弟が生まれたとき、生命を大切にしようと思った。	・1年生のたん生日のとき、おばあちゃんが泣いてくれたので、自分の命を大切にしなくちゃいけないと思った。	・お母さんから、自分の生まれたときのことを聞いたとき、やっと生まれてきたことを知った。お母さんが大変だったんだなあと思った。	◆生命尊重の授業を通して、主人公の気持ちに共感するとともに、自分や弟等の誕生について想起しながら、生命の連続性に気付き、生命に対する見方について多面的・多角的に考えている。
C児の反応		・飼っていたモルモットがもう少しで息絶えてしまいそこをみたとき、小さくてもがんばって生きようとしているのがすごいと思った。	・自分が大けがをして入院したとき、家族全員が自分のことを心配してくれたのを見て、もっと気を付けて行動しなくてはいけないと反省した。	・弟と私とお母さんでなわとびをしていたときに弟がなわにひっかかっておでこから血がたくさん出て、お父さんがいたからすぐに病院に行った。軽いけがですんだので、すごく安心した。	◆生命尊重の授業を通して、登場人物に自我関与して自分との関わりで考え、発表する姿が多く見られた。振り返りの活動で、ペットの死を通して、家族の命について考え、これからの自分の生き方についての考えを深めている。

VI 研究の成果と課題

1 明確な意図をもった指導計画の立案

(1) 成果

- 学校の教育目標や道徳教育の重点目標、道徳科の年間指導計画に基づいた授業計画を立案することで、本時で深めさせたい考え方や感じ方を具体的に設定することができた。また、明確な指導観をもって多様な指導方法の工夫を図り、具体的な評価に結び付けることができた。
- 教材観や児童観に基づいて発問計画を立てることで、児童が主体的に道徳性について考え、道徳的価値に関する理解を深めることができた。
- 児童の実態に応じた教材提示の工夫を図ることで、児童が問題意識をもって道徳的価値について捉え、自己を見つめることができた。
- 教材の特性や児童の実態を踏まえた少人数グループによる話し合いの場を設定することで、

道徳的価値を多面的・多角的な見方で考えることができた。

(2) 課題

- 道徳科における指導の効果を一層高めるために、道徳教育の重点目標や道徳科の年間指導計画を学期毎に見直し、その評価と改善を計画的に行うことが必要である。
- 児童の発言の取り上げ方について、児童の考えを広げたり深めたりするために、予想される児童の反応に基づいた補助発問の計画を更に検討していくことが必要である。そのために児童のアンケートを詳細に分析し、その結果について活用していく必要がある。

2 評価資料の収集、蓄積の仕方の工夫

(1) 成果

- 自分の考えを書く活動の工夫を通して、評価のための中心的な資料を蓄積した。一単位時間ごとに評価資料をファイリングしていくことで、児童の学習状況や成長の様子を把握し、指導の改善にも生かすことができた。
- 指導計画に応じた様々な視点を基にした具体的な評価方法について検討することで、多様な評価方法の可能性を探ることができた。

<該当学年の重点内容項目の指導における学習活動に着目した事例>

該当学年の重点内容項目の指導として同じ内容項目による指導を行うことで、道徳的価値の理解を自己の生き方とどのように関連付けて考えを深めていったかなどを見取ることができる。

<該当学年の課題に関連した内容項目の指導における学習活動に着目した事例>

該当学年の課題に関連した内容項目の指導として複数の違う内容項目による指導をユニットとして行うことで、児童が道徳科や他教科を通して学んだことを結び付けて、多面的・多角的に考え、自分の考えをどのように発展させていったかを見取ることができる。

<「成長の様子」が顕著に見られた内容項目の指導における学習活動に着目した事例>

一単位時間の指導の中で「成長の様子」が顕著に見られた児童がいた際は、その内容項目の指導後に、その児童の学習記録に着目することで、道徳的価値についてどのように理解を深めていったかなどを丁寧に見取ることができる。

<長期間にわたった指導における学習活動に着目した事例>

学期や年間など、長期間にわたった指導を通して、これまでの事例よりも長い期間で、児童の道徳的価値の理解における成長の様子や道徳科の授業での学習状況、多面的・多角的な見方や考え方への広がりなどを見取ることができる。

- 学習の振り返りとして「どのようなことを学んだか」、「どのようにテーマと向き合ったか」などをノート等に継続して書くことで、児童自身が道徳の授業での学びについて自覚し、成長を実感することにつながった。
- 道徳的価値に関わる事前アンケートの発問と振り返りの場面での発問を同じにすることで、児童が自分のワークシートを見比べて、自身の成長を実感することにつながった。

(2) 課題

- 今回示した4つの見取り方の特性を教師が理解し、指導計画に基づいた評価の視点を明確にした上で、校内全体で共通理解をしたり、学期ごとに評価を見直したりしていくことが必要である。
- ワークシート等の記述から見取れたことだけを基にした評価では、書く活動が苦手な児童や特別な配慮を必要とする児童に対しての評価は難しい。記述されたもの以外の評価資料をどのように収集するか等、個々の児童の特性に応じた「学習状況」や「成長の様子」の見取り方について、校内で検討し共通理解を図っていくことが必要である。

平成 29 年度 教育研究員名簿

小学校・道徳

低学年分科会

学 校 名	職 名	氏 名
葛飾区立西小菅小学校	主任教諭	☆大塚 重彬
調布市立柏野小学校	主任教諭	大越 盛治
狛江市立和泉小学校	主任教諭	池下 陽郎

中学年分科会

学校名	職名	氏名
中央区立中央小学校	主任教諭	塚原 雄太
北区立柳田小学校	主幹教諭	宮野 明子
江戸川区立春江小学校	主任教諭	○☆齋藤 晃
立川市立柏小学校	教 諭	内野 貴之

高学年第一分科会

学校名	職名	氏名
中央区立月島第二小学校	主任教諭	☆三上 順也
北区立浮間小学校	主幹教諭	根本 淳子
福生市立福生第四小学校	主任教諭	木津 陽介

高学年第二分科会

学校名	職名	氏名
大田区立山王小学校	主任教諭	大槻 悠
江戸川区立第七葛西小学校	主任教諭	森田 拓磨
三鷹市立東台小学校	主任教諭	☆神谷 夏海
小平市立小平第十二小学校	主任教諭	荻野 もも子
西東京市立保谷第一小学校	主幹教諭	◎中島 剛

◎全体世話人 ○全体副世話人 ☆分科会世話人

[担当]東京都教育庁指導部義務教育指導課
指導主事 馬場 一平

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

小学校・道徳

東京都教育委員会印刷物登録

平成 29 年度第 142 号

平成 30 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 康印刷株式会社